



昨年末から

耳にタコがで  
きるほど見聞  
きた「100

# 100年に一度だからこそ

いる。

モノを造って売る  
製造業ほどでないに  
せよ、産廃業界で  
も、じわじわと影響  
が出始めている。廃

RPF業者の工場  
には、中国へ流れて  
いたB級の廃プラが  
持ち込まれつつある  
反面、製造業の落ち  
込みでロス品などが  
減少。原料集荷全体  
としては、樂觀でき  
ない状況だ。需要過

者の間では、建設不  
況が長引くなか疑心  
暗鬼となり、裏では  
「誰がババを引くか」  
といった声すら聞こ  
えている。黒字倒産  
に代表されるような  
予測不能の企業破綻  
とそのリスクへの不

くろ景気が悪くとも  
環境保全の大義はゆ  
るがせにできないと  
いう一点だ。である  
からこそ産廃業界  
は、物量の確保のみ  
に目を奪われるので  
なく、今こそ循環資  
源の市況変動を含め

た情報をし

っかりと顧

客に伝え、

第三者が見

0年に一度の経済危  
機」ということは。

誰もがあいさつ代わ  
りに使い、新聞やテ  
レビ、インターネット  
トでも頻繁に登場  
し、今回の不況の闇  
の深さと規模をあら  
わす常套句になって

薬物由来燃料は、コ  
ストダウンや新エネ  
対策につながるの  
で、比較的不況の波  
を受けにくいという  
見方があった。しか  
し、それも産業界の  
落ち込みの度合いに  
よる。

多は相変わらずだ  
が、石油価格の下落  
もあり廃棄物由来燃  
料の単価は決して昨  
年前期の水準を超え  
ることはなく、むし  
ろ下降している。

安を抱えつつ業を営  
んでいるのが実情  
だ。産廃業界は、産業  
界と一体となり歩ん  
できた。当然、不況  
ともなればその影響  
は避けがたい。だが、  
逆にもある。い

ても納得できる適正  
な処理料金を提示す  
る時ではないだろう  
か。100年に一度  
であるからこそ、乗  
り越えれば強靱な企  
業体質を獲得できる  
に違いない。(恵)